資料４－１

女性が活躍する時代をつくるのは誰か　～北海道発！203050への道筋～

（報告）

団体名：BPW札幌クラブ（特定非営利活動法人日本BPW連合会）

【開催趣旨・目的】

- ■ 国連は2015年秋の総会で「2030Agenda」としてSDGsを採択した。SDGsには貧困の解消など17項目の目標があり、その中の一つが**「男女平等」の実現**である
- ■ これまでの取り組みで日本においても女性の働く環境は変わってきたと言われているが、地域においてはまだ十分な変化を実感できない。今後に向けて地域においても大きく舵を切っていくためは、国や自治体の施策に頼るだけでなく住民一人ひとりが自分の課題として行動することが必要である
- ■ 働く女性だけでなく男性にも参加を促し、地域の中で[203050]をどう根付かせるかを考える場を創出する。また15年後には中堅となる若い世代がこれからをどう描くか、自分ごととして考え行動する基盤を作っていく
- ■ また北海道内の他の女性団体とも改めて連携を図り、本事業を契機として、道全体の大きな動きとなるよう働きかけていく
- ■ 参加者がグループに分かれ、203050実現の課題を明らかにし、自らが何をすべきかについて議論を深め、またその議論を通して「私の行動宣言＝北海道アピール」を採択する

※「北海道アピール」は内閣府を含め、各共催・後援団体に伝えてその実現を訴えると共に、メディアを通じて広く周知する。実施後は総括を女性向けフリーペーパー（22万部・個配）に掲載することで、日頃関心を持てていなかった方々への啓発を目指す

【シンポジウム等の名称・テーマ】

女性が活躍する時代をつくるのは誰か　～　北海道発！203050への道筋　～

【日時】　平成28年11月19日（土）　午後１時30分～午後４時30分

【場所】　札幌市男女共同参画センター　エルプラザホール　（北海道札幌市）

【参加者数】　定員150名

参 加 者　144名（内訳：一般参加100名+関係者44名）

申込人数：106名

欠　席　者：15名（歩留まり.85.8%）

飛入り参加：　9名

男性 17名　女性127名

【プログラム】

第１部　　シンポジウム（90 分）

＜基調講演＞　　（40 分）

「ジェンダーを超えて～私たちに何ができるのか～」

＜リレートーク＞　　（50 分）

北海道におけるさまざまな分野での女性の参画拡大とそれを実現するための課題と取り組みについて確認する

第２部

＜グループ討議（ラウンドテーブル・フリートーク）＞（50 分）

基調講演・リレートークを通じて得た課題とアプローチの方向性を自分の行動にどう繋げていくかを議論する

＜「北海道アピール」の採択＞　（25 分）

各グループでの結論から「私の行動宣言」を『北海道アピール』としてまとめ、広く発信していくことを確認する

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

＜当日の状況（ファシリテーターより）＞

- 遠慮しながらもみなさん言いたいことがいっぱいという「エネルギー」の満ち溢れた話し合いでした
- 「今日は歴史的な日になる」と言って帰られた方もいました
- 「会場に入るまであのようなグループセッションを想像していませんでしたが、参加してみると和気あいあいと楽しく創造性を持って考えることができました」と感想をいただきました

＜アンケートより＞

- 全体を通じて、進行のテンポも良く、参加者にも参加意識を与える良いシンポジウムでした
- 自分の意識を変えられました
- 勉強になりました。多くの方と話し機会を持てたことが良かったです
- 職場を活性化するために必要なアイデアをたくさん学ぶことができました。会社の枠にとらわれず様々な方の意見を取り入れ、職場の従業員の幸せのために頑張って行きます
- グループセッションという形での参加は、楽しく交流しながら意識改革できました
- 只今育休中だったので、復帰してからの仕事への意欲が高まりました。自分自身にできること、自分の考えをまとめて、自分を変える！目標を持って進んでいこうと思えました
- diversity etc.を考え直す良い機会となりました。とてもすばらしい会でした

＜北海道アピールへの感想＞

- 『ロールモデルを求めるより、自らが実践しよう』というところに心を動かされました。どうしてもロールモデルを求めがちで、そして、「自分が思うようにできないのは、ロールモデルがいないから」と環境のせいにしてしまいますが、自分自身がロールモデルであるという自覚を持って実践していくことが、大事なんだと改めて思いました。
- 一人ひとりが勇気を持って行動するということ、とても胸に響きました。シンポジウムに参加した者の責務としても、この「アピール」に掲げられたことを心に留めて、実践できるように頑張りたいと思います。
- 誰かがやってくれるのを待つのではなく、まずは自分でできることから始めるのはとても素晴らしいことだと思います。
- 特に４番に共感しました。ひとりひとりが主体であり、ファーストペンギンになるという意思はとても素敵だと感じます。当社に限って言いますと「古い価値観を排除して」というよりは、「長時間労働当たり前という男性中心のこれまでの画一的な価値観を改め」というのが、考え方です。「古い」という言葉の定義が古い人にはわかりづらく、何を改めたらよいのかという指針が必要と考えました。で、これは男性にとっても働きやすい環境になると思っております。
- アピールから逞しいエナジーが伝わってきます。”男前（女前）”のアピール、いいですね。
- 北海道アピールも、とても力強く、心に響きます。ロールモデルを探していちゃ、だめなんですよね。自分にぴったり合う先例なんてないし、探している時間があれば、自分が前に一歩、踏み出していればいいんですね。私も頑張ります。
- 北海道アピール、は力強くてよいですね。多様性を受け入れ、各々が自覚をもって、他人任せではなく実践していく、という、責任をもった有意義なアピールだと思います。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

《成果》

［全体評価］

- シンポジウム全体の評価は高く（とても良かった･良かった 98%）、基調講演（同 100%）、リレートーク（同 96%）、グループ討議（同 96%）とも満足度が高い
- グループ討議を通し、狙いとしていた「自分ごととして考え取り組んでいく基盤を作る」ことはできたと考えられる
- 北海道の参加者はグループ討議は苦手といわれてきたが、最初からラウンドテーブルで参加していただくこと、雰囲気作りをすること、基調講演から意見をまとめていただくことで、途中退席は最小限で、中身の濃い議論を行なっていただけた
- 男性の参加は少なかったものの、グループ討議にも積極的に参加されており、満足度は女性よりも高かかった

［後援］

多くの名義後援をいただき、終了後も全ての団体に報告を行うことにより開催及び『北海道アピール』を広く公表することができた

・ 後援団体合計　　41 団体
　　行政　　6 団体
　　大学　　15 校
　　経済界　　6 団体
　　メディア　　14 社　（取材　2 社）
・ 協力　　1 団体

［女性団体との連携］

BPW 札幌クラブおよび札幌市男女共同参画センター（協力）からの呼びかけにより、下記団体からの参加があった

- ジェンダー研究会
- north-Woman
- 営業部女子課の会
- NPO 法人シニアアクティヴ
- 松の実会
- 公益社団法人札幌市母子寡婦福祉連合会
- Future-Drawing
- ガールスカウト北海道連盟

［集客］

・ 紹介による参加者が多かったが、様々なツールでシンポジウムを知り参加いただけた会社員が半数を占めるものの、多様な業種や立場の方に参加いただけた
・ 札幌市男女共同参画センターの協力により、登録団体への DM 送付を行なっていただき、参加に繋がった

《課題》

・ 30 歳代以下が 24%と若い世代を呼び込めたが、学生の集客が十分とは言えず、課題を残した。大学の行事のある時期を外す、ジンポジウムの意義をより詳しく伝え大学との単位連携を探るなどの工夫が必要
・ 男女比率は女性が圧倒的に多く 8 割を超えた。男性の集客には自分にも関わるシンポジウムであることやパートナーと一緒に参加できるシンポジウムであること（託児利用も強調）をアピールするなど広報を工夫したい。さらに道庁や札幌市などのネットワークを活かし、企業人事/労務担当者への働きかけを強化することも考えたい
・ グループ討議の時間がもっと欲しかったという声が見られたが、全体の時間設定と討議テーマから見ると必要時間は満たしていたと考えられる。テーマによっては再考が必要と考えられる

【今後の課題】

＜シンポジウム企画＞

・ 札幌市では、今年度秋に開催された女性活躍や男女共同参画に関わるイベント、シンポジウムが大変多い状況だった。そのため、他のイベントとの差別化が難しく、集客や取材依頼に苦心した。グループ討議や自分ごととして考えるなど、シンポジウムの特徴をより明確に伝えるとともに、こうしたシンポジウムをどの時期に開催するかの検討が重要と思われる

＜開催準備＞

・ 運営会社決定から事業開催まで2ヶ月を切る中で準備を進めることとなった。
事業採択後、運営会社が決まるまでの時間の短縮が望まれる。

・ 準備時間がない中で、運営会社に企画意図を理解いただきポスター、チラシを作成いただく余裕がないため、企画側の負担が大きかった。主催側と運営会社の役割分担をより明確にする必要がある

＜今後のフォローアップ＞

・ BPW札幌クラブでは『北海道アピール』を初めとして、203050を実現するための活動を今後も続けていく。会員一人ひとりの日頃の活動を充実させるとともに日本BPW連合会と連携しつつ、周年行事（2018年の45周年、2023年の50周年など）でもこの行動宣言がどのような成果を生んでいるかを検証し、さらに深化させるためのシンポジウムの開催を検討するなど、北海道の多くの人々への発信を行なっていく

資料４－２

女子中高生のみなさんへ　女性の裁判官・検察官・弁護士の仕事や働き方ってどんなかな？

（報告）

団体名　：　日本弁護士連合会

【開催趣旨・目的】

政府の「第４次男女共同参画基本計画」は，司法分野における施策の基本的方向として「法曹三者それぞれにおいて３０％目標に向けた取組を加速していくため，法曹となり得る人材プールを拡大すべく，法曹養成課程において女性法曹養成に向けた取組を進める。」とし，当連合会も「第二次日本弁護士連合会男女共同参画推進基本計画」中「３弁護士における女性割合の拡大と女性弁護士偏在の解消」において「⑧弁護士を目指す女子学生・生徒の裾野を広げるべく，大学や高等学校をはじめとする教育機関や女子学生等に対し，女性弁護士に関する情報提供を行う方策を検討し，実施する。」との具体的施策を掲げている。

しかしながら，司法試験合格者に占める女性割合は年々低下しており（平成２４年２５．２５％，平成２５年２３．２８％，平成２６年２２．５４％，平成２７年２１．５７％），現状，「法曹三者それぞれにおいて３０％」という上記政府目標達成の見込みはないといわざるを得ない。上記政府目標を達成するには，まず，法曹を志望する女子学生を大幅に増加させることが不可欠である。

そこで，将来の進路を考える女子中高生及びその保護者に対して，普段の生活ではあまり接することのない女性法曹と触れ合う機会を設け，法曹の仕事の魅力やワークライフバランス・収入面・就職状況などを女性の視点から生徒たちに伝え，意見交換を行い，将来の進路選択の有力な選択肢として法曹を考えてもらうことを目的とし，本シンポジウムを実施した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

シンポジウム「女子中高生のみなさんへ　女性の裁判官・検察官・弁護士の仕事や働き方ってどんなかな？」

【日時】

２０１６年１１月２３日（祝）１３時００分～１６時００分

【場所】

早稲田大学大隈記念講堂小講堂及び各教室

【参加者数】

２２１人（内訳：学生１１９人，保護者５７人，講師等関係者４５人）

【プログラム】

第１部　１３時５分～　大隈記念講堂小講堂

基調講演「女性法律家の魅力～そのやりがいを語る～」
講師：大谷 美紀子弁護士（日弁連国際人権問題委員会委員長・２０１７年３月から国連子どもの権利委員会委員就任予定）
第２部　１３時３５分～　大隈記念講堂小講堂
パネルディスカッション「女性法律家のさまざまな働き方」
コーディネーター：石田 京子准教授（早稲田大学）
パネリスト：矢尾 和子判事（東京地方裁判所），鈴木 朋子検事（東京地方検察庁），佐藤 倫子弁護士（香川県弁護士会）
第３部　１４時５５分～
①グループセッション（学生の方対象）下記教室
刑事①　３号館４階４０２教室
講師：山口 温子検事（司法研修所教官・検事），和田 恵弁護士（東京弁護士会）
刑事②　３号館４階４０２教室
講師：浦岡 修子検事（外務省総合外交政策局兼国際法局付検事），亀石 倫子弁護士（大阪弁護士会）
民事家事①　３号館４階４０５教室
講師：佐藤 彩香判事補（東京地方裁判所），石田 愛弁護士（第二東京弁護士会）
民事家事②　３号館４階４０５教室
講師：鹿田 あゆみ判事補（東京地方裁判所），葦名 ゆき弁護士（静岡県弁護士会）
男女共同参画　２７号館２階２０４教室
講師：打越 さく良弁護士（第二東京弁護士会），塩生 朋子弁護士（第二東京弁護士会）
労働　２７号館２階２０５教室
講師：木下 潮音弁護士（第一東京弁護士会），村越 芳美弁護士（群馬弁護士会）
企業法務　２７号館３階３０１教室
講師：金野 志保弁護士（第一東京弁護士会），寺浦 康子弁護士（第一東京弁護士会），鍛治 美奈登弁護士（第二東京弁護士会）
国際関連　２７号館２階２０２教室
講師：大谷 美紀子弁護士（東京弁護士会），石黒 美幸弁護士（東京弁護士会），磯井 美葉弁護士（第一東京弁護士会）
憲法・人権　２７号館３階３０５教室
講師：海渡 双葉弁護士（神奈川県弁護士会），近藤 里沙弁護士（埼玉弁護士会）
医療・福祉　２７号館３階３０６教室
講師：大森 夏織弁護士（東京弁護士会），寺町 東子弁護士（東京弁護士会）
②説明会「法曹という職業選択について」（保護者・教員の方対象）大隈記念講堂小講堂
説明者：石田 京子准教授（早稲田大学），矢尾 和子判事（東京地方裁判所），鈴木 朋子検事（東京地方検察庁），道 あゆみ弁護士（東京弁護士会）

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

第１部

「内気だとおっしゃっておりましたが，今とてもいきいき話しておられて，私も頑張ればあんな風に話せるようになるのかなと思いました。」（高校生）／「私も人のために役に立ちたいと思っていて，この法曹の仕事が更にかっこよくみえた。」（高校生）／「弁護士の仕事のすばらしさを知った。今の世の中では英語が話せるだけではだめだと思った。」（中学生）／「実際，この仕事をして，学ばれたことなどがたっぷりときけ，吸収することができて良かったです。」（中学生/「なぜ，どのようにして弁護士になったのか，詳しくきくことができてよかったと思う。海外での生活のことなど，具体例も交えて説明していただいたので，とてもわかりやすく，少し理解できた。特に『様々な意見が集まることで豊かな世界につながるという話が心に残った。』（中学生）／「はじめの大谷美紀子さんの社会で困っている人の役に立ちたいという意見に感動しました。自分の意見をはっきり言うのが苦手な人が弁護士の道へ進んで，よかったと思っていて，苦手を克服したといっていて，努力したんだなと思いました」（高校生）／「自分も，人前で意見を言うことが得意な方ではない。そういう人でも，努力すれば弁護士になることができるんだなと，分かった。これからの参考にしたい。」（高校生）／「私も国連や外交官に興味があるので，法律家から世界にも広げられるのだと知れて良かったです。」（中学生）／「とても，大谷さんと私は性格が似ているなと勝手ながら共感してしまいましたが，少し私も内気で，思っていることを言えないといったりしていたけれど，そんな人でも，国連の人になれるのはすばらしいことだと思いました。憧れました。」（中学生）／「ひっこみ思案気味の私でも，弁護士さんなどの仕事もできるかもしれないと考えられるようになりました」（高校生）／「どのような子ども時代を過ごして弁護士になったのかや，学生時代の話などを聞くことができたので，今の自分にとても参考になりました」（高校生）／「人柄やモットーがよく伝わってきました。すごく素敵なお話でした。ありがとうございました。」（高校生）

第２部

「滅多に裁判官，検察官，弁護士の方々のお話を聴くことができないので大変参考になりました。お三方がとても活き活きと仕事の魅力について語っておられて，法曹にとても興味がわきました（高校生）」／「法律家は自分が思っていたものより，女性も活やくできるものなんだと思えました」（中学生）／「検事を目指すなかで不安や心配事などがありましたが，それらが全て晴れて，今日参加できて本当に良かったと思いました。」（中学生）／「プライベートな話も聞けたり，イメージが変わったりしてうれしかった」（高校生）／「楽しい話をたくさん聞けた。今まで知らなかった弁護士の仕事や，検事，裁判官の仕事が聞けて，意外に思ったことや，興味を持てたことがたくさんあった。」（中学生）／「ネットで調べてもわからないような法律家さんの普段をきけてすごく面白かった」（高校生）／「それぞれ，立場は大きく違うけど，誰もが信念を持って仕事をされているのだと実感した。今まではとても忙しそうで大変な仕事だと思っていたが，融通もきいて，子育てにも理解のある職場だと思った」（中学生）／「それぞれ法曹三者の女性が本当にかっこよく，まぶしく感じました」（高校生）／「三つの立場の人の意見

が聴けて面白かったです。違いが明確に分かってよかったです。」（高校生）／「今までぼんやりとしか知らなかった法曹という仕事について知ることができた。本やインターネットでは知ることのできない生の声で話しを聞けて面白かった」（高校生）／「忙しくてなかなか他のことができないというイメージがあったのですが，結婚や子育てを両立している方が多く安心しました」（中学生）／「私が職業人として聞いても，涙がでてきてしまった。情熱をもってお仕事されているところを伝えて下さってありがとうございました（保護者）」／「講師の方々の豊かな人間味にふれることが出来，保護者の私にとっても興味深くよい経験となった」（保護者）／「３人のお話を聞き法曹会のイメージが良い意味で変わりました。それぞれの方が生き生きとお話しされ，やりがいをもってお仕事をされていることが伝わってきた点がとても良かった」（保護者）

第３部

「直接質問などができ，とてもおもしろかった！」（中学生）／「少人数のセッションだったので色々な質問ができて良かった」（高校生）／「間近で本物の検事さんや弁護士さんの話が聞けてよかった。」（中学生）／「実際の仕事について詳しく知ることができ，進路の参考になりました。そして，弁護士という仕事に前向きに取り組んでいらっしゃる姿に感動しました。」（高校生）／「もう少し長いともっとうれしかった。」（高校生）／「少人数のため非常に質問がしやすかったです。三人の方の意見を聞けて，いろんな視点を見れた気がしました。」（高校生）／「夫婦別姓訴訟事件について興味を持った」（中学生）／「自分の質問に対して先生が１つ１つ答えてくださって勉強になりました。様々なことに関心を広げてより深い知識を得たいと思いました」（中学生）／「企業に就職するか，法律家の立場として企業に関わるか悩んでいたので，とても有意義だった。」（高校生）／「紛争解決」のために，様々な対応を講じていらっしゃるんだな，と実感しました。貴重なお話ありがとうございました。」（高校生）

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

下記アンケート結果のとおり法曹に対するイメージも良好となっており，また法曹を進路選択の一つとしていただけたことから，開催の目的は達成しているが，継続して同様のシンポジウムを各地で開催し，地道に女性法曹希望者を増やしていくことが今後の課題と考えている。

【（イメージが）変わった】

「かたいお仕事というイメージ」→「先生方がそれぞれご自分のお仕事にやりがいを感じ楽しんでいらっしゃるのがよく分かりました。」（高校生）／「堅苦しいイメージ」→「楽しそうで，とてもやりがいのあるお仕事だと思いました。」（中学生）／「男性が多い職業，堅苦しい」→「女性が活躍していて，男性よりも関わりやすい部分もある」（高校生）／「男の人が多い」→「女性だからできる見方もあるんだと思い，役に立てるのだと感じました」（高校生）／「堅苦しい感じ」→「気さくな感じでとてもすてきな方ばかりだった」／「かたいとか，忙しいとか」→やわらかくなった」（高校生）／「厳しく，エリートでお堅いイメージでした」「人間味豊かな方々で，イメージがからりと

変わりました」（保護者）／「堅苦しそうで厳しい世界が広がっているイメージ」→「自分が工夫して，その時その時に頑張ることができれば何だってできるという，ある意味前向きで楽しいというイメージになりました！」（中学生）／「かたいイメージ。」→「とても良くなった。それぞれの仕事がかっこいいと思った。」（高校生）／「女性が少ない，女性が働きづらい」→「女性が働きやすいようになっていると感じた」（中学生）／「どれに対しても，やりがいはあるのだろうとは思っていたが，自由のきかない女性にはやりづらい職業だと思っていた。」→「かたいイメージを持っていたが，クリエイティブな仕事だと思った」（高校生）／「弁護士は，生活に困ってしまいそうだから絶対になりたくないと思っていました」→「弁護士も普通に生きていけるのが分かりました」（高校生）／「堅苦しいイメージ」→「話が面白い方ばかりで，自由に仕事ができることも分かりました」（中学生）／「大変な仕事」→「世界が広がっていく，フレキシブルな仕事なんだなと思いました」（高校生）

【（イメージが）変わらない】

「自分には手の届かない存在だと思っていました」→「しかし元々法曹の仕事をなさっている女性の方にあこがれを持っていて，より一層『かっこいい』と思いました」（中学生）

【どちらともいえない】

「狭き門を通りぬけてきた人」→「責任ある仕事だが，自分のやりたい事をしているから楽しめるのだと分かった」（高校生）

（全体その他の感想）

「本当に仕事をしている『生』の声が聞けてよかったです。思っていた以上に楽しそうだったり，やりがい，生きがいを感じているんだなぁーと思いました。」（保護者）／「法曹になりたいという思いが再認識できてよかったです」（高校生）／「娘は小学生のころから検察官になりたいと強く思っておりましたが，現実的なことが見えてきた中３になり，試験の難しさ，将来女性としても（結婚出産）幸せがほしい…など悩み考える様になっておりました。今回生のお話が聞けてすっきりしていると思います。ありがとうございました」（保護者）／「お仕事が忙しいなか，このような企画を運営して下さいましてありがとうございました。同じように次世代をもつ母として，また，職業人としてとても貴重な経験でした。不登校だった娘が参加したいと外出するぐらい素晴らしい企画でした。」（保護者）／「本当に楽しかったです。貴重な体験をすることができました。ありがとうございました」（中学生）「女性の弁護士や検事のみなさんの話がきけて，率直に『おもしろかった』です。今まで以上に将来のことについて考えるきっかけになりました」（中学生）／「実際に働いているからこそ，わかることが知れたのが，今回来て，一番良かったなと思いました」（高校生）／「専門的職業について女性が色々と学ぶことができてよかった」（中学生）／「女性としての立場から詳しいことを聞かせていただいて，本当に有意義な時間になりました。本当に素晴らしい時間になりました。ありがとうございました！」（中学生）／「自分でもっと弁護士について調べたくなったし，海外でも弁護士という仕事をすることができると知って，すごい嬉しかった」（高校生）／「法曹という選択肢もよく考えて，女性として活やくできる仕事をみつけていきたいです。」（高校生）／「進路について考えるにあたって，すごく貴重な機会でした。本当にありがとうございました。（高校生）

【今後の課題】

本シンポジウムは保護者と教員も対象としていたが, 学生に比べ参加数が少なかったことから，今後は保護者・教員への広報が課題となっている。また，広報の時期については前倒しし，広報期間を長めに確保することで，幅広い周知につながると思われる。

なお, 教育関係団体との連携が諮れるとなお充実したシンポジウムになるのではないかと思われる。

また,「被疑者」等の専門的な用語が分かりにくいため，今後は使用しないようにする,「株式会社とは」など学生には分かりにくい概念は事前に資料を用意するなど，よりわかりやすい運営を心がけることとしたい。

グループセッションの時間が短いとのアンケート結果等もあり，今後はグループディスカッションの持ち方についても検討を要する。

今回は，東京での開催であり，東京近郊の学生の参加が主であったので，今後は地方での開催も検討すべきである。

以　上

資料４－３

いま期待される女性のリーダーシップとは　ー女性のリーダーシップで社会が変わる、社会を変えるー

（報告）

団体名　：特定非営利活動法人　国連ウィメン日本協会

【開催趣旨・目的】

平成 27 年 12 月の「第４次男女共同参画基本計画」では、第１～第５分野において、「あらゆる分野における女性の活躍」があげられている。

女性が活躍する分野における現状をみると、企業においては、平成 28 年４月の「女性活躍推進法」の施行により、女性の採用の拡大、働く女性の職業生活と家庭生活の両立などとともに、女性の育成と登用が課題となっている。またスポーツ界では、女性指導者の割合が男性指導者に比べて少ないことや、女性選手のリプロダクティブ・ヘルスの向上の観点からも、女性指導者のリーダーシップに期待が高まっている。さらに女性リーダーが果たす役割は、様々な形の NGO 活動においても注目されるところであり、女性のリーダーの育成、登用は、社会全体の要請であるといえる。

2000 年以降、国際社会の女性リーダーの増加は経済や政治の領域で顕著であり、また、学術やスポーツ、芸術、社会活動などにおける女性の活躍も目覚ましい。日本でも漸く、女性のリーダー育成や登用への取り組みに関心が向けられるようになった。その背景には、国内外の社会環境の変化に呼応できる社会の再構築が必須となっている状況がある。このような社会の要請に応えることができる「今」期待されるリーダーシップとは何か。それは、これまでの男性文化に基づくリーダーシップ像を女性にも当てはめることだろうか。「女性のリーダーが増えると、日本社会はどう変化するか」をイメージしてみよう。

本事業では、上記３分野において女性のリーダー育成を実践している専門家による報告と討議を通して、私たちが直面する課題を洗い出し、取組体験から得た教訓を共有する、そして、女性が様々な日常生活の領域でリーダーになり、また、リーダーを作ることが出来るという理解を深めることを目指してシンポジウムを実施した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「いま期待される女性のリーダーシップとはー女性のリーダーシップで社会が変わる、社会を変えるー」

【日時】　２０１６年１２月１日（木）　１３：３０～１６：１５

【場所】　上智大学　国際会議場（２号館１７階）
（東京都千代田区紀尾井町７－１）

【参加者数】　１９１名

【プログラム】

13:30～13:40　開会挨拶（10 分）
有馬真喜子（国連ウィメン日本協会理事長）
髙祖敏明氏（学校法人上智学院理事長）

13:40～14:10　基調講演　「スポーツを通じた女性の活躍推進」（30 分）

講師：鈴木大地氏（スポーツ庁長官）

14:10～14:25　休憩（15 分）

14:25～16:10　パネルディスカッション（105 分）
「私の歩んだ道―そして未来を拓く」

パネリスト：
①三屋裕子氏（(公財）日本バスケットボール協会（JBA）会長）
②村木厚子氏（前厚生労働事務次官）
③河本宏子氏（全日本空輸（株）取締役専務執行役員、グループ女性活躍推進担当）
④木山啓子氏（特定非営利活動法人ジェン（JEN）代表理事）
⑤山口香氏（筑波大学体育系准教授）

コーディネーター：
目黒依子氏（特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会副理事長、上智大学名誉教授）

16:10～16:15　閉会挨拶
吉川真由美（国連ウィメン日本協会理事）

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

基調講演について

・スポーツ政策の基本方針は今後とも参考になると思います。
・スポーツの中でも女性活躍というテーマがあり、世界の中での日本が問われていることがよくわかりました。
・日本のスポーツ界の現状、今後の課題などが理解できた。強化すべき項目が明らかになりました。
・スポーツ庁の存在意義、役割が今回明確に理解できました。

パネルディスカッションについて

・それぞれの歩んできた道が分かり、たくさんのロールモデルに出会えたと感じました。困難や失敗を経験したことで今があるといことが分かり、はげみになりました。
・お一人おひとりの発言が大変学びが多いものでした。政策、スポーツ、企業、NGO と多様な立場や視点があり、バランスが大変よかったと思います。
・発言すること、外の世界とつながる。ロールモデルになるように自覚する。などが心に残りました。
・自分のキャリアを考える上で、本当にためになりました。頑張れと背中を押された気がしました。
・素晴らしいパネリストの方たちも自信がなく悩む時期があったことを聞かせてい

ただき勇気をいただきました。

シンポジウム全体について

・このような会でスポーツが取り上げられたことにとても喜びを感じています。
・異業種の方とふれあう機会がないのでパネルディスカッションを通じて話が聞けてよかったと思います。
・タイムマネジメントがしっかりしていました。規模が適切だと思いました。
・今日の学びは男性上司を含め、周りの人々に発信していこうと思います。

自由意見

・風土や環境からかえていくのはそれが世界であろうと日本であろうと企業内であろうと同じ共通の課題だと思いました。
・今回のようなテーマを女性だけではなく、男性経営者にも聞いていただきたいと切に願います。
・パネリストの方のすばらしい経験を是非若い中学、高校生女子も聴くことができる機会をつくっていただきたいと思いました。
・航空業界や旅行業界などテーマにしたディスカッションを聞いてみたいと思います。（出版業界、広告なども希望）

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

・スポーツ庁長官の基調講演では、スポーツ庁の組織概要や女性アスリートの活躍支援プログラムの内容、女子のスポーツ参加の現状と参加促進キャンペーンの成果など、女性とスポーツについての実態とともに、スポーツ指導者というスポーツ界のリーダーシップという観点からみた女性の活躍はまだ十分とは言えないことが数字で示された。こうした現状を踏まえたスポーツ庁の中長期的な取り組みが行われることが紹介されて、女性および少女のエンパワーメントにつながる期待を与えた。

・パネルディスカッションでは、異なる分野（スポーツ、企業、官公庁、ＮＰＯ活動）から女性リーダーの育成に携わってこられた方々をパネリストとして迎えたことにより、女性が職場で能力を発揮し、リーダーシップをとる立場での各分野特有の経験や対応策の多様性とともに分野横断的に共通する経験を知ることができた。
５名のパネリストは、それぞれのキャリア形成の道のり、直面した課題・障壁、女性が「真に」輝く社会を構築するための必須条件について、具体的な体験を生の声で語ることにより、参加者の注目を逸らすことなく語り、最後に、振り返って「よかったこと」をメッセージとして参加者に伝えた。参加者は、日頃直面する課題や、その解決体験から得た教訓を共有し、自分たち自身がリーダーになる、リーダーをつくることができるという理解を深めたことが、その反応から見て取れた。
・本企画は、上記のようなパネリストの経験・知見の発信をサブ・テーマごとに時間を区切り、コーディネーターの質問に対するパネリストの回答という形式で行い、その後にパネリスト間での意見交換を行う形式とした。時間内に的確な情報発信をするという良きリーダーシップの要素が発揮され、また、緊迫感とテンポの良い進行で、

参加者の参加意識の高揚につながったといえる。

【今後の課題】

・あらゆる分野における女性のリーダーシップを総合的に議論することは、今回のような単発のシンポジウムでは困難である。単発の場合は、企画の趣旨を徹底するために、基調講演者とパネリスト全体の分野バランスを更に考慮することが望ましい。

・参加者の数は予定以上であったが、男性および大学生を含む若い世代の参加者が少なかったことは、シンポジウムの内容が男性や学生・若い世代にとっても有益であったことから、残念だった。共催大学の授業時間等を配慮した日程であったが、出席した学生たちからの情報では「授業時間の都合」が参加状況に影響した模様。今回の内容で学生＋若者対象に企画を立てる意味はあると考えられる。

資料４－４

自然と科学が拓く　地域の未来、あなたの未来

（報告）

団体名　：　一般社団法人日本女性科学者の会

【開催趣旨・目的】

2016 年 4 月の女性活躍推進法施行に伴い、社会における女性の労働環境が改善されつつある一方で、20 代を中心とする若い女性の専業主婦願望が増加を続けている傾向は見逃すことができない現状である。この原因として、日本社会においては女性が就業し続けることの難しさに加え、ますますニーズが高まっている企画力、行動力に優れた理系出身者が女性には少ないということも考えられる。地域創生が注目されるなか、地域で活躍できる人材として女性への期待も増大している。

このような認識の下、本会では豊富な人的ネットワークを活用し、2013 年度から 2015 年度までの 3 年間、連続して女子中高生を対象とし、理系の学問と仕事の楽しさを紹介することにより、女子中高生に未来の自分を創造してもらう趣旨のシンポジウムを開催した。

そこで本年度も、女子中高生に対し、女性が社会人として職業を持ち、働き続けることの必要性・重要性を啓発する趣旨のシンポジウム開催を目指すこととする。さらに今回は、高齢化社会が進む地域での活躍が期待される女性人材の育成を視野に入れ、地域の医療・福祉や地域おこしに活躍している女性の職業や事例を紹介する。

また、医療や福祉分野や新たな産業には欠かせない理系分野への進学促進も人材育成には必要であり、低学年からの理系教育の必要性を踏まえ、保護者や教員のみならず一般市民においても、身の周りの科学や理系の楽しさにふれることにより、理系教育への興味啓発や女性の継続的就業への認識増進へと繋がることも目的とする。

さらに、現在国際的に取組みが進んでいる STEM 教育の促進、とりわけ女子中高生を対象とした STEM 教育の推進と本事業が連携できることも期待している。

【シンポジウム等の名称・テーマ】　自然と科学が拓く　地域の未来、あなたの未来

【日時】　平成 28 年 12 月 3 日（土）13：00～17：00

【場所】　高山市高山市民文化会館　（高山市昭和町 1 丁目 188-1）

【参加者数】 60 名（含講師 8 名、学生・女性研究者ファシリテーター14 名）

【プログラム】

13：00　開会

開会挨拶　功刀　由紀子　（日本女性科学者の会　会長）

来賓挨拶　西倉　良介氏　（高山市副市長）

13：10　第 1 部　講演会

白子　順子氏（高山赤十字病院　第一内科　部長）

「医者というお仕事」

岡田　贊三氏（飛騨産業株式会社　代表取締役社長）

「飛騨産業株式会社の取り組みと女性の活躍」
丸山　広恵氏（アピ株式会社　事業戦略室　次長）
荒木　陽子氏代読（アピ株式会社長良川リサーチセンター製品開発顧問）
「仕事へのモチベーション」
木村　了氏　（NPO 女性技術士の会　理事長）
「理系職業の楽しさ…期待される女性の発想」

14：40　休憩

14：55　第 2 部　パネルディスカッション
「社会で役立つ理系の勉強～未来の仕事を見つけよう～」
パネリスト：
原山　美知子氏　（岐阜大学工学部准教授）
藤田　昌子氏　（岐阜女子大学家政学部教授）
小倉　ふじの氏　（高山市役所基盤整備課）
板津　純子氏　（高山市立中山中学校教諭）
第 1 部講師の方々
学生・女性研究者ファシリテーター
コーディネーター：　浜田　恵美子（日本女性科学者の会理事）

16：55　閉会挨拶　大川内　由美子（内閣府男女共同参画局総務課政策企画調査官）

17：00　閉会

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

以下、アンケート結果にみられた参加者の主な感想や意見を記載する。

(1) 本シンポジウム参加前後での、理系や科学に対するイメージの変化について

67％の参加者が、イメージが変わったと述べ、さらに、「科学に興味を持った。」「理系進学に興味を持った。」「科学技術の仕事に興味を持った。」との感想を述べている。また、イメージの変化について、シンポジウム参加前のイメージは「堅い、難しい、堅苦しい、男の人ばかり」「就職先は研究職位で少なそう」「地味な仕事」「男性に負けないように頑張らなくてはいけないイメージ」といった専ら暗いイメージであった。しかし参加後では、「理系についての狭い世界が広がった。」「身近なものであることが分かった。」「女性がどんどん活躍できる場であり、職業も幅広いことが分かった。」「これからの未来についての仕事をしているイメージ」「女性の視点を活かすことができる分野」という明るく良好なイメージへと変化している。

(2) シンポジウムに参加して、今日気付いたこと

「女性が理系社会で活躍できること」「自分のやりたいことは、あきらめずにしぶとく続けていけば、いつかチャンスがやってくること」「あきらめないこと、小さなことも好奇心であること」「苦しい道ほど進んだほうがよい」「夢は困難があったほうがよい」等、あきらめないことや、困難なことも回避するのではなく、全

力で向かって行くといった勇気や根気の必要性に気付いたことが伺われる。

(3) 中高生への質問として、あなたの未来の仕事を見つけるために、これから何をしたいか

「とりあえず勉強を頑張ろう。これから何かあっても、今日のことを思い出せば耐えられる気がする」「勉強をしたり、様々な考え方を知るために、このような会に積極的に参加したい」「もっと高山に興味を持つこと」「高校・大学に進学して、先輩たちのお話を積極的に聞くこと」等、勉強や知識の習得のために自ら行動することを挙げており、待ち受け型と言われている現在の中高生から脱却した発想が伺われる。

(4) 本シンポジウムへ参加した感想・意見について、アンケートでの自由記述をそのまま転載する。

・こういった会を高山でひらいてくださって、本当にありがとうございました。貴重な体験ができました。

・こんなに本格的な事業だと思っていなくて、もっと多くの人にこの企画を知ってもらったほうが良かったんじゃないかなと思いました。思っていた 100 倍くらいのことを知る事ができました。本当にありがとうございました。

・いろいろな分野の方がみえトークもおもしろく楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。子どもも良い話がきけて良かったと思います。

・若いというのはすばらしい。これから何でもできる。何にでもなれる。がんばってほしい。もっとたくさん参加者があればよかった。内容はよかっただけに残念。進路にはあまり関係ないが、これからの人生をよりよく明るく生きていくためにも先輩の話を聞くのは楽しいことです。

・とてもよい講演、機会でしたので、もっと多くの方へ参加していただけるとよかったと思います。学校からの周知をもっとしていただくとよかったと思います。

・文系の私！？が参加してよいか迷いましたが、興味深い話が聞けてよかったと思います。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

今回のシンポジウムでは、女子中高生の理系進学促進という目標達成に向けて、まずは当事者である女子中高生のみならず、保護者や教育関係者、さらには地域の方々全てにわたって、理系や科学が楽しく身近なものであることを理解して頂く企画を心掛けた。そのうえで、理系に進学しても将来の職種は限定されるものではなく、多方面の仕事に就き活躍できることを伝えるために、現在地域で活躍している多方面の講師の方々をお招きした。

これらの目的・企画に対し、参加者アンケートの結果から、ほぼ満足すべき成果を挙げることができたと判断してもよいであろう。理系や科学に対するイメージの変化は、期待した通りである。また、イメージの変化が、理系進学促進や理系分野の職業選択指向へと繋がるであろう意見も多数示されている。

第 2 部のパネルディスカッションでは、「未来の仕事を見つけるためにこれからした

いこと」を「好奇心」を糸口に、講師と参加者全員でディスカッションを行った。その結果として参加女子中高生からは、前述の【参加者のおもな感想・意見】の「今日気付いたこと」「未来の仕事を見つけるために、これからしたいこと」に記載した通り、好奇心が大切であること、自らとは異なる視点での考えに気付かされたこと、地元に興味を持つこと、先輩や親の話を積極的に聞くこと、といった今後の人生や人間関係構築に必要な視点や発想にも気付いたことが示されている。この気付きは、理系分野への進路選択に直接関わる情報ではないが、このような視点や発想をもって理系を選択し、職業を選択する女子中高生が増加することは、【開催趣旨・目的】に記載した「ますますニーズが高まっている企画力、行動力に優れた理系出身者」を増加させ、現在注目されている地域創生に関わり、地域で活躍できる人材としての女性への期待も増大してくると推測される。

以上のような結果から、本シンポジウムで当初設定した目的は、ほぼ満足できたと評価しているが、一方で大きな課題が今回は残された。それは、シンポジウムへの参加者数である。今回は、残念ながら非常に参加者数が少なく、参加者アンケートにも「内容が良かっただけに残念」という含意の意見が、多数みられた。

本シンポジウムの企画にあたり、開催地を高山とすることには、集客面で不安材料が存在したことも事実である。日本女性科学者の会では、2013 年から 4 年間続けて地方（福島、名古屋、佐世保、高山）で開催をしたが、昨年の 2015 年度までは開催地に本会の会員が複数在住し、開催運営を担っていた。しかし、今回の高山については、会員が在住しておらず、もっぱら高山市役所との連携で運営を行った経緯がある。高山市役所の担当者には力を尽くして頂いたが、高校との対応といった部分で会員との差がついたようである。

一方、高山市には 4 年制大学が存在しないため、従来このようなイベントが少ないとのことであり、今回のアンケートにも、「高山で開催され、貴重な体験をした」旨の感想も寄せられている。本事業の名称が「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」であることから、開催趣旨としてもイベント開催が首都圏に集中するのではなく、地方での開催も重視すべきと考えるが、一方で観客動員という観点から地方での開催には課題が存在する。

また、今回開催日決定に際し、飛騨地域の高校と中学校の学校行事についてヒアリングを行い、定期試験等の終了した時期として 12 月 3 日（土）選択した。事業申請書の締め切りとの関わりで、4 月末時点での確認であることは致し方ないことであるが、各中学高校はその後、様々な学外行事を追加することとなり、結果として参加者数に影響が及ぶこととなった。

【今後の課題】

今回、複数の要因が重なり、集客面で残念な結果となった。この結果に基づき、さらに過去3年間の実施状況も勘案したうえで、本事業として地方での開催を重視するのであれば、現状での本事業募集内容を再検討すべきではないだろうか。次に3点の再検討項目を示す。

(1) イベント内容について、現状の募集内容では200名程度を対象とした比較的大規模なイベント開催が求められている。この規模では、講演会が主要な企画内容となり、従来著名人を講師とした講演会が開催されている。イベントの目的・目標における成果達成の観点からは、50名規模でグループディスカッションを主体としたイベント開催が、効果や効率の面から優れていると評価できる。イベント参加者が少なくても、成果が挙がり参加者個々人における意識改革や啓発が促進できれば、参加者が次の起点（いわゆるアクター）となり啓発活動が連続して展開する可能性が十分考えられる。

　例えば、本会が目的としている理系進学促進に関しても、直接的な対象者である女子中高生の啓発のみに注力するのではなく、既に理系進学をした女子大学生や大学院生が理系分野で定着、活躍できるためには、今後ロールモデルとなるような職業選択や研究者としての心構え等に関する啓発も必要である。そのためには、少人数でのイベントも重要であると考える。

(2) 複数主体での連携開催をより推進する。男女共同参画推進連携会議には、地方からも多くの団体が参画している。これらの団体が核となり当該地域での諸団体と連携して、地方でのイベント開催を推進することが必要ではないか。その際、首都圏や大都市圏で活躍する団体等が企画面での協力をすることも、成果の挙がるイベント開催には必要と考える。

(3) 予算の柔軟な使用を要望する。地方でのイベント開催に際し、小規模のプレイベントのような催しを開催し、内容や趣旨の浸透を図る（たとえば高校での模擬講義等）。チラシやポスターのみでは、イベントの内容や趣旨がなかなか伝わらないが、プレイベントで体験してもらうことが、集客拡大に繋がるのではないか。そのためには、プレイベント費用や、開催までに何回か開催地に出かけるための交通費補助等主催者側でも使用できる予算措置が望まれる。

以上

岐阜新聞

2016年（平成28年）12月6日 火曜日　飛騨地域 22

リケジョの仕事紹介

理系分野で働く女性　女子中高生に講演　高山市

女子中高生を主な対象に、理系の学問や仕事に興味を持ってもらう講演会が、高山市昭和町の市民文化会館で開かれた。市内の中高生ら約50人が、社会で活躍する女性からやりがいや思いを聞き、自分の夢を実現するための考えを話し合った。

女性が社会で働き続ける大切さを啓発しようと、内閣府や日本女性科学者の会などが開いた。

医療や建築、化学研究など各分野で活動する講師4人が経歴や活動を紹介。「やりたいことを漠然と持てば、遠回りでも夢に自然と近づく」「どんな分野でも数学的、科学的な考え方は必要になる」などと語り掛けた。

講師に加え、県内で理系の学問や仕事に携わる女性4人と参加者を交えたグループ討論も行われ、将来の夢の種となる、好奇心を持ち続けることの大切さを確認し合った。（亀山大樹）

好奇心を持っていることを発表する参加者
＝高山市昭和町、市民文化会館

資料４－５

多様な職場から見える“男女共同参画”の課題とヒント~生活者視点で目指す消費者志向経営~

（報告）

団体名　：（一社）日本ヒーブ協議会

【開催趣旨・目的】

日本ヒーブ協議会は、企業人／生活者の２つの立場において、それぞれ消費視点／就労視点を持つこととしている。企業人としての立場では「売り手（消費視点）」と「働く女性と企業（就労視点）」のあり方を考え、消費者の立場からは「買い手（消費視点）」と「働く女性と暮らし（就労視点）」のあり方を考える。これら４つの側面から消費社会のあり方をとらえ、消費者志向経営という観点のもと、生活者の利益と企業の健全な発展に貢献することが、当協議会内での女性の活躍である。

女性は家庭内での購買の決定権を持つことが多いことから、企業において経営や製造、営業等の面で能力を発揮する女性を育成することは、消費者志向経営を考えるにあたり必須であるといっても過言ではない。例えば、産休・育休等の制度を利用して働き続ける女性が増えることで、そうしたライフスタイルを持つ女性の市場は、企業にとって１つのまとまったマーケティング対象となりうる。企業は、社内でこうした制度を活用して職場に復帰した人から、現場感覚のあるリアリティの高い生活者の声を得ることができる。仕事上の経験が生活に活かされ、生活上の経験が仕事に活かされる、いわば“ワークライフシナジー”の観点からみても、女性の視点が企業活動に反映できる可能性とその価値は大きい。

行政・企業のワークライフバランスのための制度は整いつつある。しかしながら、運用にあたっては、企業の業種・規模・風土などさまざまな課題がまだあるのが現状である。男女共同参画の進展にあたっては、企業の多様性に対応し、職場の事情や状況に応じたきめ細かい対策・政策が不可欠である。そのためにはまず、現状把握が必至である。例えば大企業と中小企業の別や業種、就業者に占める女性の割合などによって必要とされる対策は異なる。しかしそうした差異に着目して考える機会は多いとはいえない。

これらの点から、多様な職場での実情・常識・慣習などについて、現状の情報共有を行い、その中で課題とヒントを見つけ出すことを目的としたシンポジウム「多様な職場から見える“男女共同参画”の課題とヒント」を開催した。多様なメンバーが会員として参加している当協議会の特性を活かし、業界を代表して複数の企業の従業員に話をしてもらうことで、聴衆に意識喚起を行うとともに、これまでとりあげられることが少なかった現場ごとの課題に目を向けたい。さらに、次世代の就労への対応を考える上で、大学生にもヒーブカフェに参加いただき意見も取り入れた。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

テーマ：「多様な職場から見える“男女共同参画”の課題とヒント
～生活者視点で目指す消費者志向経営～」

【日時】2016 年 12 月 9 日（金）　13:30～17:00

【場所】丸の内 MY PLAZA ホール

【参加者数】 126 名

【プログラム】

◆開催挨拶・主旨説明

内閣府男女共同参画局　政策企画調査官　大川内由美子

一般社団法人日本ヒーブ協議会　代表理事　宮木由貴子（(株)第一生命経済研究所）

【第一部】

◆事例報告

テーマ：男女共同参画で実現された消費者志向経営の事例報告（10 分×4 名）

・小野 倫子 氏　　イオンサヴール(株)　代表取締役

・古賀 大三郎 氏　味の素(株) 食品事業本部 家庭用事業部 加工食品グループ長

・西岡 真帆 氏　　清水建設(株) 人事部 ダイバーシティ推進室室長

・福井 泰代 氏　　(株)ナビット 代表取締役

◆パネルディスカッション

・上記 4 名

・コーディネータ：(一財) サンスター財団　脇田真知（日本ヒーブ協議会監事）

【休憩】

【第二部】

◆ワールドカフェ（ヒーブカフェ）

・テーマ：

「ワークライフシナジーから生まれた新しい市場価値を、どのように企業に反映させるか？」

ファシリテーター：

(有)リリアプロジェクト　代表取締役　岩井美樹氏（日本ヒーブ協議会九州支部支部長）

クリエイティブオフィスビーンズ　花田泉氏（日本ヒーブ協議会九州支部副支部長）

【閉会】

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

＜シンポジウムについて＞

■前半のパネルディスカッションでは、のりかえ便利マップを発明された方から、嫌なこと、不便なことが新しい発明を生み出すきっかけになる、ということを学んだり、組織として女性活躍推進を進めるために、男性の理解も推進しなくては、と「イクボス」の対応を進めている会社の取組を教えていただいたりと、日々の仕事における姿勢や、会社として取り組まれている内容など、様々な視点からお話しを伺うことができ、新たな気づきが多かったです。

　後半につきましては、ヒーブカフェという形式で、（ワールドカフェ形式を初めて体験させて頂きました）みなさんとても活発にお話しされる方たちで、様々なご意見をうかがえて、とても楽しかったです。同じ講演を聞いても、人それぞれ気づきが異なっており、とても興味深かったです。（20代女性・企業勤務）

■「なぜという視点をもつこと」企業にいると体制や社風にきまって、あらためて考えることが少なくなってしまう。立ち止まって改善策までを考えてみることが必要だと思った。（40代女性・企業勤務）

■なるほどと思うことであったり、気づき、ヒントが数多くありました。「否定ではなく意見をいう」「女性だからできることをもっと発信する」「言い訳をつくる」など、今後の取り組みでのヒント、本当に多数ありました。きてよかったです。期待以上でした。（40代女性・企業勤務）

■WLBを行うことで、消費者視点に立ったことができると分かりました。（20代女性・学生）

＜ワールドカフェについて＞

■今まで参加したことがないよい形式でとても興味深いものでした。様々な方のお話や考え方を知ることが出来て良かったです。（40代女性・企業勤務）

■考えを楽しく深掘りできました。いろんな立場の方がいらっしゃる中、悩みはとても似ていたり、また未来への一歩（自分の足りないところ）も気づきました。（40代女性・企業勤務）

■女性活躍という言葉はキライというのが印象的でした。女性も男性もみな平等に活躍できる社会になり、女性活躍が当たり前になればいいと感じました。（20代男性・学生）

＜シンポジウム全体について＞

■男性の参加も多く驚きました。ディスカッションの中でもできましたが、変化は男女一緒に進めるべきなので、男性が自分ゴト化することは素晴らしいと思いました。男女共、自分ゴト化するとても良い機会だと感じました。（30代女性・企業勤務）

■「商品を売る前に生活を売る」という考えの活動の中、お客様の生活を考える（＝少しだけ先のお客様のニーズを考える）ための大変参考になりました。また機会があれば、参加させていただきたいと思います。（50代男性・企業勤務）

＜後援団体参加者より＞

■まさに多様な方との共同での開催で準備等、とても大変だったと思います。皆さん、前向きでとても良い雰囲気の有意義な会合でした。

＜パネリストより＞

■普段は製品開発やマーケティングの業務が主体なので、改めて、「働き方」とか「人材の多様性」とか「女性の活躍」のような着眼で仕事を振り返る機会を頂き、大変有意義でした。

普段、女性部下が多い中で仕事をしておりますが、ああいう女性の多さには流石に緊張しました（笑）。でも、ヒーブ協議会のみなさま方から温かいお言葉をかけていただき、事前打ち合わせの段階から打ち解けることができ、感謝しております。

【シンポジウム等を通じて得た成果（効果）と課題】

■成果

今回のシンポジウムでは、「女性の活躍」ということだけでなく、女性の視点を活かした「消費者思考経営」という切り口を入れていたこともあり、男性の集客ができたことが大きな成果である。これにより、男性においても日常生活からの消費者目線という意識を持つことの重要性を訴えることができたと考えている。

加えて、仕事をする時間以外の時間を有効に活用することで、仕事に直接的・間接的なメリットをもたらすことができるという点を発信することができ、ワークライフシナジーというテーマにうまく落とし込むことができたと考えている。これは、今般注目されている「働き方改革」にもつながるものである。就労時間を短縮することで、在社時間の効率を高めると共に、非在社時間がさらに仕事の効率を高めるということを、消費者目線の側面（例えば、自社製品を実際に日常生活で使用することで消費者としてのヒントを得ることができる）と、リフレッシュの側面（フランスのようにバカンスのために働く意識を持つことで仕事の効率を高める）から指摘することができた。

さらに、後半に行ったワールドカフェ（ヒーブカフェ）では、講演とパネルディスカッションでそれぞれが感じたことを聴衆同士で共有化し、コミュニケーションをとることでさらなる議論がテーブルごとに展開され、一人一人に自分のスタンスや意見を強く意識してもらうことができた。パネラーからの一方的な情報を受け取るだけでなく、自分からも情報発信をするという行動を伴い多様な企業・団体に所属する個人同士が事例を共有し合ったことで、多くの情報を持ち帰っていただくことができたと共に、それぞれの人が男女共同参画についてしっかりと考え、意識を強めてもらえたものと思われる。

■課題

パネラー一人一人が非常に多様かつ興味深い内容のプレゼンテーションをしてくださったことや、ワールドカフェというワークショップを取り入れたことにより、非常に盛り沢山なメニューとなった。このため、パネルディスカッション・ワールドカフェ共に「もっと時間が欲しかった」という意見が散見された。今後の課題として、イベントの時間配分と内容の深堀りについて、より社会のニーズに沿ったものを意識していくとともに、さらなる波及効果を見越した構成案を練っていきたい。

また、後半のワールドカフェについて、開始前の休憩時間に年代の高い男性を中心とした中座が見られたことが残念だった。ワークショップという参加型の建付けに抵抗のある男性も少なくないことから、少しでも多くの方々にご参加いただけるよう、全体運営上の工夫も必要であると感じた。

【今後に向けて】

講演・パネルディスカッション、ワールドカフェという建付で非常に盛り沢山の内容だったこと、日本ヒーブ協議会会員自身にとっても新しい情報をということで非会員企業にもパネリスト依頼を行ったこと、さらに100名を超える人数でのワールドカフェを試みたこと、５団体に後援依頼を行ったことなどにより、見通しの立ちにくい部分が多々あったにもかかわらず、内閣府ならびに委託業者の柔軟な対応とご協力、さらに協議会会員・会員企業の尽力により、盛況な会とすることができたことを心より喜ぶと共に、関係各所に感謝申し上げたいと思います。

今回のトライアルにより得た知見や反省点を次回に活かし、さらに皆様のお役に立つ活動・企画を展開していきたいと存じます。

以上

資料４－６

企業×女性起業家のマッチングイベント

ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですーWEPs（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けてー

（報告）

団体名　：一般社団法人東京ニュービジネス協議会／J300 実行委員会

【開催趣旨・目的】

WEPs（女性のエンパワーメント原則）の第５･６原則の実現に向けて国連の UNWOMEN とグローバルコンパクトが作成した７原則で構成される WEPs（女性のエンパワーメント原則）の第五･第六原則の促進を図るイベントである。

署名企業は各原則の遂行に尽くしているが、「ステークホルダーや地域との参画」を謳った第５原則、第６原則は、各社内で実施される管理職の登用促進や教育･研修機会の提供などの取組とは異なり、その活動方法や取組の在り方が模索されている。日本における WEPs の展開を考える際、第５、第６原則の活動方法を検討することは極めて重要であり、それは、WEPs の特徴が「職場だけでなく市場、地域とともに取り組む」ということにあること、さらには、男女共同参画社会の創造と深く関係している。こうした現状に鑑み、本事業では、第５原則のうち「女性の経営者や起業家との取引の発展、取引先や同業者の関与」、第６原則のうち「ステークホルダーや当局、その他の機関との協働促進」にフォーカスする。本事業では以下の成果が期待される。

①WEPs 署名企業や女性のエンパワーメントに関心がある一般の方々と女性起業家との間に接点を生み出すことで、男女共同参画社会の創造と理解を深める機会となる。

②女性起業家の業務内容を広く社会に発信し、取引機会を創出するとともに、WEPs 第５、６原則への取組の好事例を発信する。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

企業×女性起業家のマッチングイベント

ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですーWEPs（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けてー

【日時】2017 年 1 月 26 日（水）13:00～17:45

【場所】イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA

【参加者数】 280 名

【プログラム】

■トークセッション

・全国各地で活躍する女性起業家たちの取組紹介

・女性起業家×企業のコラボ先進事例の共有

■ミニ交流会

グループに分かれ、女性起業家が自身の事業を PR し企業の担当者と交流

■プレゼンテーション

15 社の大手企業からの事前課題に対し、女性起業家がプレゼンテーション

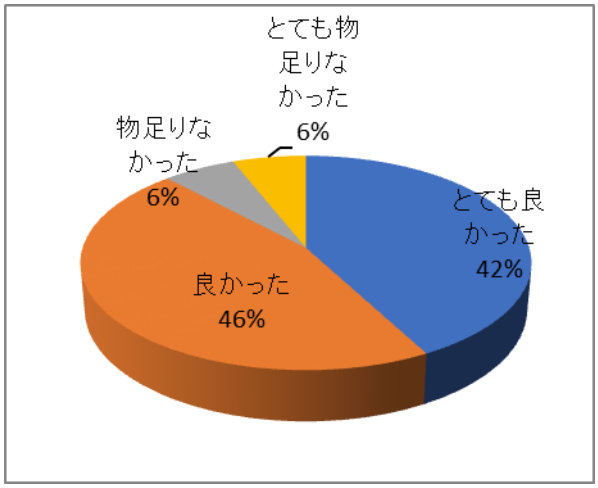
■クロージングセッション

総括発表

【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

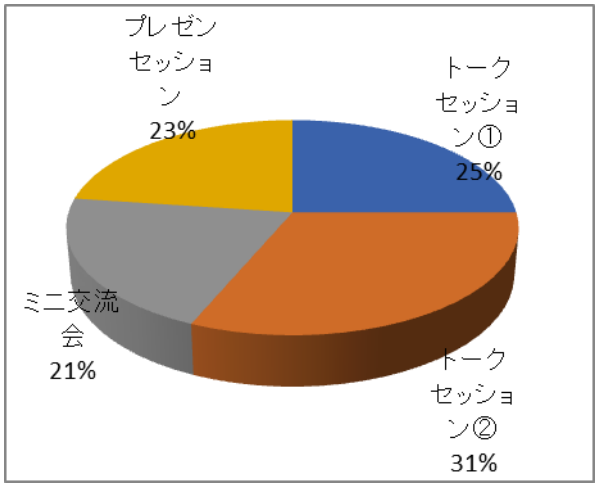
■イベントの評価

「とても良かった」「良かった」の評価が合計で88%



■良かった思うセッション

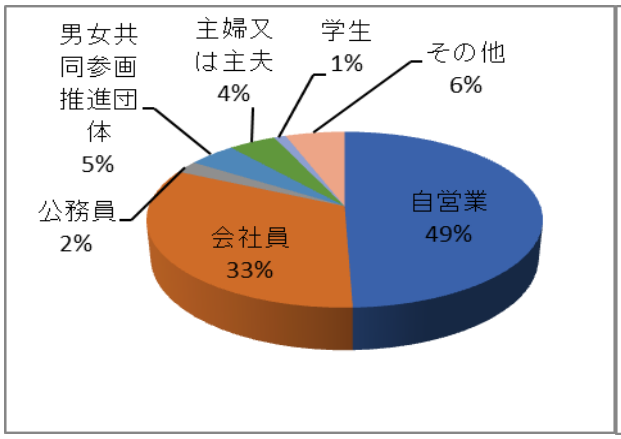
特定のコンテンツに偏らず、すべてのコンテンツが好評価を得た

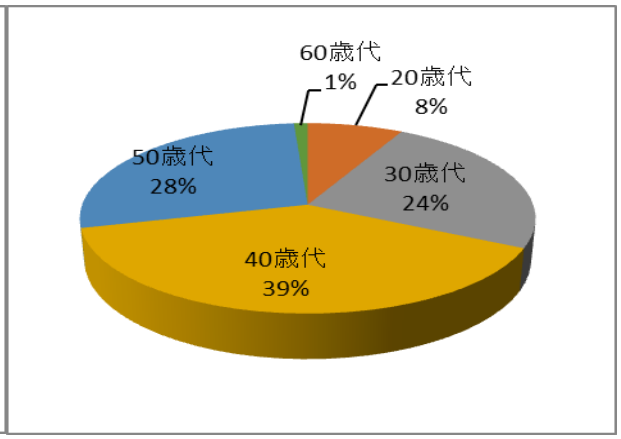


■参加者の属性

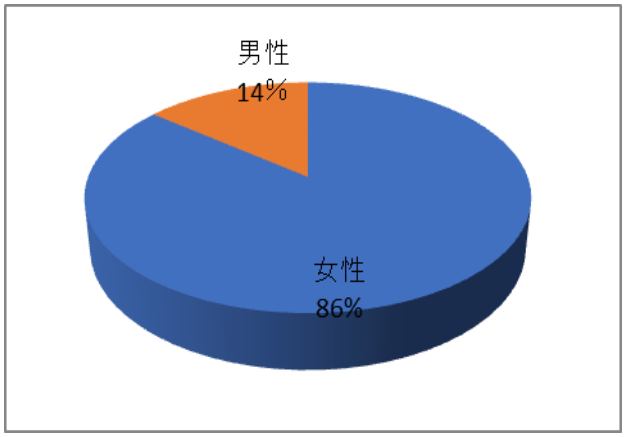
女性起業家だけでなく様々な職種、20代～60代までの幅広い年齢層の方が参加

▼職業・属性　　▼年齢





▼性別



■参加者コメント（一部抜粋）

・とても**刺激をいただける**内容でした。みなさんの熱い想いと目指すヴィジョン…自身の**事業について改めて考えられる機会**となりました。

・**つながり**という面で良かった。プレゼンの時間が短いところも企業様の興味を引けて良かったと思う。

・夢を描き、頑張っているパワフルな女性がたくさんいて、**「私にもできる」と思えました。**

・最先端のリアルタイムのお話、すごく興味深かったです。**コラボのできそうな出会い**もありました。

・企業担当者に直接プレゼンできる**貴重な機会**をありがとうございました。沢山の起業家に会えて刺激になりました。

・**託児を準備してくださる事に感謝**です。もし可能であれば交流の時も託児作って下さると更にうれしいです。

・具体的な提携事例をもっとふみこんで聞きたかった。

・時間が押すこともなく短くちゃんと事業内容を紹介していただけたことがよかったです。時間的にむずかしいかもしれませんが、参加者からの質疑応答があればよかったです（事前に質問を集めておいて１つだけ答えるなど）

・ミニ交流の時間が短くあわただしかったです。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

■来場者に、女性起業家の取組を知ってもらうきっかけとなった。

・トークセッションでは全国各地から計 8 名の女性起業家が登壇。
「大手企業と女性起業家の取引先進事例」と「全国各地で活躍する女性起業家の取組」を来場者と共有した。

・昨年度同様立ち見を軽減するための**ビジョンエリアや託児エリア**を設けたことで、より多くの参加者にイベント参加してもらうことができた。

▲トークセッション１の様子

▲トークセッション２の様子

▲会場は満員

▲託児スペースの様子

■企業、女性起業家双方に取引イメージを持ってもらうことができた。

・提携先企業担当者がトークセッションに登壇し、企業担当者目線からも女性社長との提携裏話が聞ける貴重な機会となった。

・ミニ交流会では、事前に参加者に興味ある分野をヒアリングし、その分野に沿って交流するグループ分けを行ったことで、今後に繋がりやすい交流の場となった。加えて、女性起業家は**共通の「PR シート」**を使用し、自身の特徴を可視化し、事業を他の参加者に知ってもらえる機会となった。

▲ミニ交流会の様子１

▲ミニ交流会の様子２

■**プレゼン通過率は 35%**で、第五原則の促進に向けた具体的な成果につながった。

参加企業より「もっと詳しく聞きたい（アポ・メール）」との評価は 35%（31/89 プラン）となり昨年より通過プラン数（昨年度 33→今年度 31）、通過率（昨年度 43%→今年度 35%）ともに微減。

プレゼンを行った女性起業家の人数は昨年度の 77 社から、89 社へと増加した。

▲プレゼンの様子１

▲プレゼンの様子２

【今後の課題】

＜昨年の課題の改善＞

①同イベントの開催回数の増加・地方開催等の検討

開催回数の増加や地方開催は行わなかったが、参加人数は増加（昨年度253人→今年度280人）し、プレゼンテーションへ参加した企業数及び女性起業家も増加（企業数：昨年度14社→今年度15社、女性起業家：昨年度77社→今年度89社）し、企業と女性起業家の出会いの機会提供の規模は拡大した。

②参加者満足度の向上

アンケートの結果「とても良かった」「良かった」合計で88%の評価となり、昨年度(93%)から減少した。

昨年度は運営面の問題もありミニ交流会とプレゼンテーションの満足度が相対的に低かったが、今年度はセッション別の評価で、それぞれのセッションを良かったとした評価は増加した（ミニ交流会16%→21%、プレゼンセッション18%→23%)。

③運営の品質向上

昨年度は受付やイベント進行において主催側スタッフが運営業者をサポートする状況が散見されたが、今年度は運営業者主導でスムーズに進行が行われた。

＜今後に向けての課題＞

・同規模の開催は難しいが、規模を縮小した地方開催などの可能性を検討する。

・参加者満足度の向上を図る。トークセッションに対しては、「具体的な提携事例をもっと踏み込んで聞きたかった」、「質疑応答があると良かった」などの声があった。ミニ交流会に対しては、限られた時間内で効率的に参加者の交流が図れるよう、PR時間の変更など改善を図る。

以上